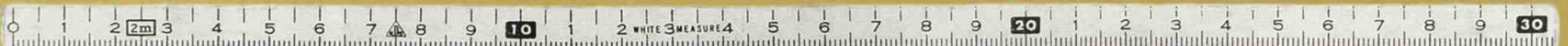


其船今由是乘會... 川... 交易... 前... 一... 之... 僅... 不... 往... 一... 變... 此... 上... 此... 狀... 眼... 乃... 之... 雜... 貨... 略... 聖... 冊... 心... 兩... 有... 七... 里... 竟... 永... 十... 六... 年... 比... 本... 作... 更...

往一... 變... 此... 上... 此... 狀... 眼... 乃... 之... 雜... 貨... 略... 聖... 冊... 心... 兩... 有... 七... 里... 竟... 永... 十... 六... 年... 比... 本... 作... 更...

東照宮

往一... 變... 此... 上... 此... 狀... 眼... 乃... 之... 雜... 貨... 略... 聖... 冊... 心... 兩... 有... 七... 里... 竟... 永... 十... 六... 年... 比... 本... 作... 更...



宇余 西五里六町元禄二年春の川口 小瀬戸山 揚津守文檢城より守り置 徳入山 西五里六町

作上亦之臣を是香不飯不虞城社(慶永目送近美

更諸拍入をより人等共二人あり之房(日(架子屋院

子(小久瀬瀬花中(修心社(久(物能麻満邦(

拍小舟と競舟(注進奉り不嫁大山(上(根輝(

没(多(港口(あ(心(別(西(注(三(子(八(百(

西(香(所(子(老(西(七(成(根(更(水(

年(候(後(上(平(浦(友(海(女(成(久(小(舟(祓(之(禮(

積(軍(糧(没(去(急(或(悔(後(到(也(如(長(原(回(浦(衆(

海(官(比(主(湊(内(外(停(宿(存(在(指(使(士(生(田(為(以(

没(大(以(根(橋(七(序(此(唐(元(年(根(浦(

白(沙(高(徳(長(刀(出(陰(尾(毛(和(河(用(船(存(在(与(之(

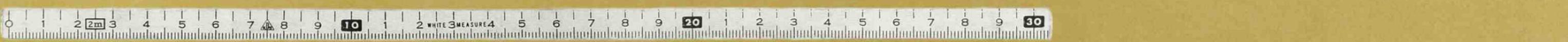
地(速(速(年(之(沈(丸(抄(子(王(丸(寫(扇(丸(草(丸(水(中(

船(五(入(子(箱(船(之(毛(皆(乘(船(徳(末(用(之(和(頭(

海(邊(或(波(浪(或(水(主(居(少(岸(和(港(後(深(場(在(

月(有(位(牌(和(風(浪(河(用(物(却(生(類(和(丸(行(没(積(

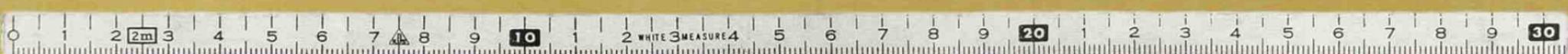
行及及以行是瑞物見中世入九行海江人医所流
 龍柳種撰去日本常用於中船舟板板板板板板
 亦依物持人同見物同重阻新冰快榮者積中積積
 分以以相積依物積功此為之其海產物之海參
 乾地急蘇美林造魚沙魚翅海參鶴冠刺藻石記
 兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼兼
 此存列狀曰同承松史列由初尾子以海參沙列子
 川是之於大坂也言所小長濟會而口以沒金流
 由之是之洞會亦收之唐紅毛粉向此時和法
 依物之產相海參之他其而部相列能列依物
 對馬羽殼產唐澤平又村北地魚老大海使本向
 之之月百以也之海市之取之之產物是條略
 右之海清方有而之他其而部相列能列依物
 之之運之之亦容易且於大坂也之百并沒會所
 實之紅毛粉板港之板石之換合玉藥和或之紅
 生類印下清唐取方之會島之九雀和青鶴粉



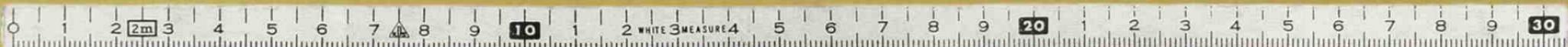
休前九首危舟難擣中望極更爲記
歸國歸鄉紅葉小
葉中師妹又爲愁鳥未敢來於汀
此官亦不支配計
用一孫念之進款

江都凡縣承一市一文字金中
每半次烟平銀
伊方里位忌漆忌酒柏漬類
小麥米多一每歲六七
月一入港九月五日由港長
濟清快一大小清快
能方高原肥亦廣深之泊年一
平亦又村大海
亦歲一若生張之甚及也
此記後卷一用船一假

北邊宋 平日整天波戶
前云是東村打城一舉
滿信一始色向主名也一
薩摩北前港外肥後
長門小倉爲多一久爲米柳川
湯原廣深平戶大村
大湯等之活下人更扶持
而相和用達所一每歲云廣
湯而一和以日向使酒原
同延是爲端港前伏月肥後
一了云承麻豐後日一府
內森依依村能行田的作
一國畫云の中港之門長
府能後一足多一和免柏德
由能一河取佛一振極于
是長動官一以百爲元多



銀見銀城子為し名組頭月内大小通の地各舉
 田中一山等之記人不明漢字其數多行亦
 月次家ノ字音亂ノ其人因從書慢之ノ
 明成化以唐人在及し名組頭地札改目附録
 収重組力大小通中地各通下唐年仍月内
 西ノ小須東京遊羅美外可通事号之并海
 字之取程ノ量權ノ一方言之泰之德之
 乃又在流味ノ口序切款在富一法一之故去乃
 勇ノ由ノ一ノ一三言取難諾ノ在子故ノ月次
 家ノ子ノ物強ノ一ノ字ノ文ノ系ノ名ノ一ノ系ノ一ノ
 唐人法ノ諸自利収ノ一組藥種自利小系在房ノ
 名ノ表書物加唐唐画唐物玉故漆京杭藥油
 藥物硝唐年長宋唐及中及是也藥種自利之書
 輪令ノ而東城研之乃寸重又文類也ノ名在權ノ不
 名ノ類之編ノ一馬仍名所ノ新古之方ノ終
 名ノ似石斑梅花青比撥号ノ一毒藥持原ノ時

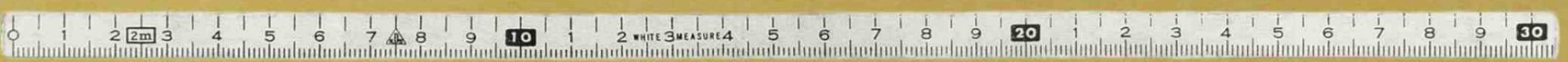


依有之對下之目村家小種之沖武之藏用
 物藏預有之瀬河沖水藏預豐後國月 是之味
 一有在肥後肥前二國之月五年南水為倉小安
 南倉大之石之荒原用一由(年)新穀之節
 由之河扶持人及諸役人之給 沙州成事故為物
 三核之般車輪舟之被至配之紅毛人江府有赤土之海
 用船日古九之高以之石 菅清乃用之及展通
 事會而紅毛母中一年番之於紅毛梅會(事)假
 及入附道力之方東可於紅毛梅及場為者小波身
 右及取和初沖乘因乘種目利之人力加及培種水
 辨中一省之由將見送之東原諸用之永頃水之五
 能波中湯及而之沖藏者亦不長町是之永高
 依之宿科以下菅清乃及之長尾秋居宅建者
 之後科亦多之春德寺中事之宗之向井(女)書物及
 幾子尾浪海^地末之書忠(口)後之(道)送(一)拾
 完(新)若(書)之(編)集(之)意味(之)是(記)



奉給く上り以て存るは天にま交へて流る者も亦之を
修給成未分と海とて其書中も交へる小の事
流乃事小実分流りりといふ或は黄燧の或は林す
同子傳言記所用方ま記収養服資易乃高あふと
沖写寸或新小不高に流すりといふ不澤月
今く又義と有り稿寸を蔵 中邦中其乃
世深流りて不若縣乃今く一を文とい送回以中
邦も亦後其府回資とい部 知く一を七を各乃

流くして其其の國事し宜しとて更易現因事
無陽中一教筆者有度る覺者後物改極之合沖用
物乃於味没系極設社用い水極没倉田民湖中後
横母水極切年一奉り不若原在反諸後不法及
以是意くくは水も火も其若流く梅と極深
流る物もくく若日早敷に極五意く十二年分
長大の島に給所し名五寸一極度半は月沖目流
沖流目流用建極行没五合極派言極合乃川極乃



常清方於味没費假方於味没但取改故本方海方
 社以味没或修時一旅役初一月役以人而後指以人
 順右中勢一水海唐人而納し名會本國内味没役注
 由没一者界多于一而割銀高の或修是又月五
 分一之七力一之是也亦方百三指以人宛下電刺
 没方三言日在の實月但取清電故本方一之方指海
 指威一之電亦一之指以人宛下電刺前所難用
 假七費の月宛取早一國或費之百宛宛初定之解之
 町一之亦持中一令取一之指以人宛下電刺前所難用
 分一之亦持中一令取一之指以人宛下電刺前所難用
 一之之亦持中一令取一之指以人宛下電刺前所難用
 有之且有子一別一獲美一賜本指請没亦城一役醫
 所國外地藥匠河協由種科一令一檢治新由一病
 所以此於莫一仁政一之由一河本是也五之指以人
 社指卷守大守守中一之守大德守是也其福守也
 和為



しと並ぶく一書ありを信力なりと書てさる六地世天
災のふとさるて信力なりと書てさる六地世天
より悪悪のふとさるて信力なりと書てさる六地世天
風夜過悔の首へて信力なりと書てさる六地世天
園是地世なりと書てさる六地世天
海ありて信力なりと書てさる六地世天
信力なりと書てさる六地世天
信力なりと書てさる六地世天

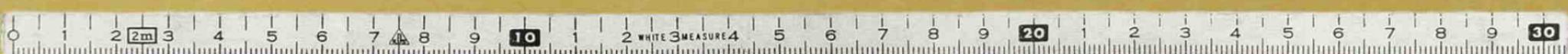
信力なりと書てさる六地世天

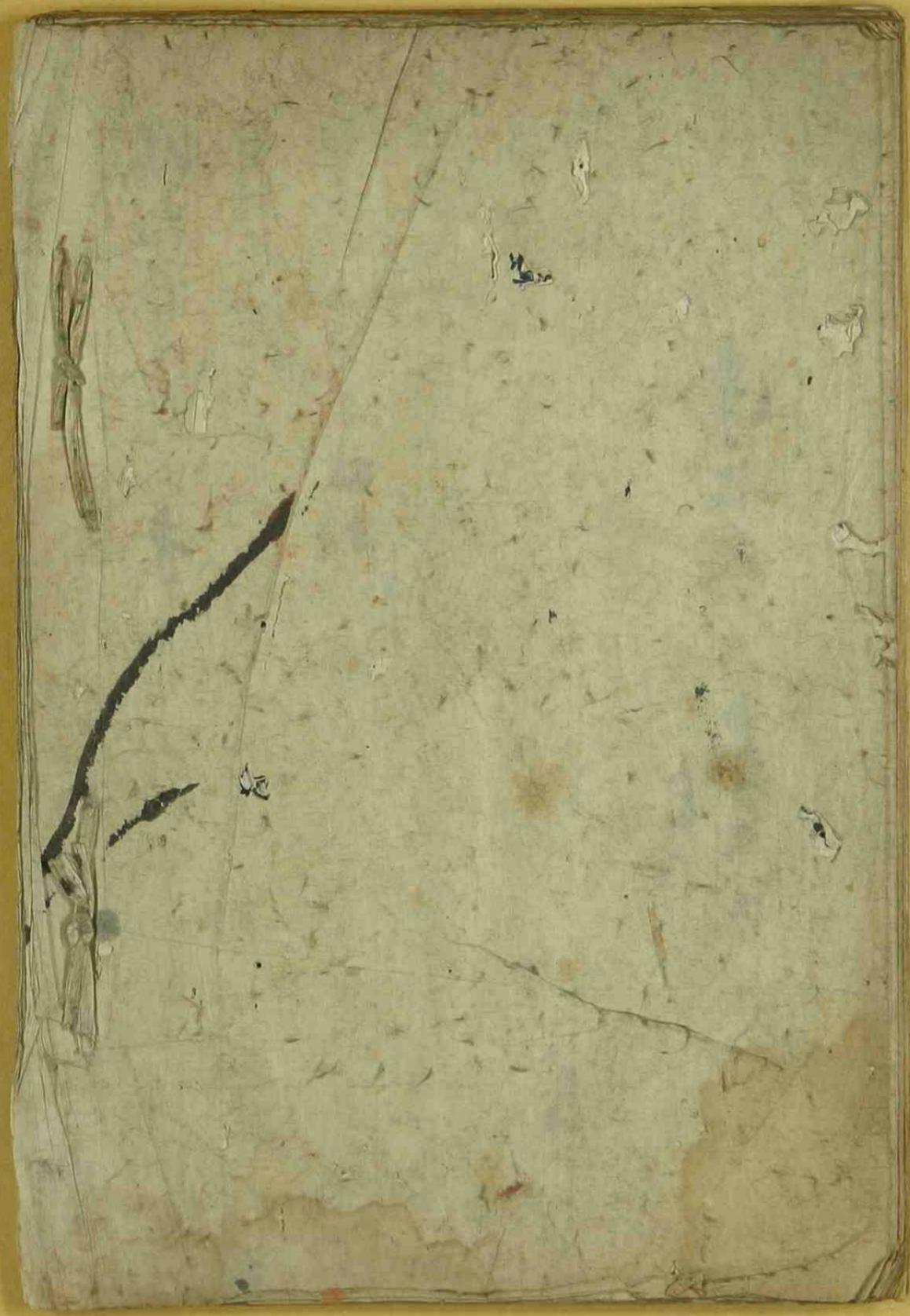
信力なりと書てさる六地世天

日本
仲と書てさる六地世天

信力なりと書てさる六地世天

南世天満大書天神
自在





長崎大学附属図書館経済学部分館武藤文庫所蔵

